

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070305000
法人名	木曾工業株式会社
事業所名	グループホームわらい (1ユニット)
所在地	福岡県北九州市戸畑区新川町5-6
自己評価作成日	平成29年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年8月4日	評価結果確定日	平成29年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・日々の業務として消毒・清掃にて感染症対策を実施しており、ホーム全体での感染症は発生していない。また市民センターの活動や地域行事にも参加している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームわらい」は戸畑区の住宅地に位置し、市民センターが隣接する地の利を活かし、運営推進会議や地域交流等にて連携を図っている。市民センターで開催される川祭りには毎年出かけ、地域の方々と共に消防音楽隊や縁日等催しを楽しむ姿が見られる。また、伝統行事である戸畑祇園の見物では、多くの観衆と共に夜の提灯山笠の運行を楽しんでいる。開設12年目を迎える事業所には当初からの職員もあり、「楽しく 笑顔で のびのび」という理念に基づき、スタッフ間のチームケアを活かしながら、医療連携体制の確保や日々の対応に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルーム内に掲示し、職員は確認し意識しており、また外部の方やご家族様が見える様にしている。今後も地域の方・職員共に理念の共有、実践する様に努めている。	開設者の思いを受け継ぎ、「楽しく・笑顔で・のびのびと」という理念に基づいた運営方針を掲げ、自然体で実践に努めている。1回/月、開催される運営推進会議においても確認し、職員間の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、協議会長・市民センター館長とは会議を含め定期的に情報交換を行いながら地域の行事にも参加・交流を図っている。また小・中学生との花の活動や職場体験の受け入れを行っている	市民センターに隣接する地の利を活かし、日頃から地域清掃やお祭り等の情報提供を受け参加したり、まちづくり協議会長の来訪を受ける等の交流を継続している。また近隣の小中学校の活動や、工業高校からの木工棚、椅子の寄贈等もあり、地域との付き合いも継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議に地域の方を招き入居者様との交流から認知症の理解を深めて頂ける様に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行事・ホーム内活動・入居者様の様子を分かりやすい様に写真と説明にて報告している。また、情報・意見交換の時間を作り、今後の予定報告や地域行事等、その他の意見を頂きサービスに取り入れられる様に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的で開催され、家族も持ち回りで参加している。入居者の状態や活動状況、行事案内を報告し、協議会長からは地域行事の情報提供があり、参加につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加して頂き、活動報告・広報誌の配布を行い、また必要に応じて生保CWや介護保険課にも連絡を取り協力関係の構築に努めている	近隣の市民センターとは密に連携を図り、市開催の研修には参加するようにしている。また生活保護受給者の受診時の対応や定期訪問の際には情報提供等、連携を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や外部研修にて身体拘束について、スタッフが理解出来る様に努めている。また、ホームの構造上、1階部分から外部の侵入者対策にて必要となる事もあるがスタッフ間の連携にて対応に取り組んでいる	年間計画に沿って研修が行われている。事業所は2階に位置する為、安全配慮のため施錠をすることもあるが、ユニット間・中庭は自由に行き来できるようにしている。また、ベッドには鈴を設置して入居者の転倒防止に努める等、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者の虐待について開催しており、知識を持ち、意識しながら業務を行う様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用や予定は無いも必要時確認出来る様に資料の準備はしている。また勉強会にて理解に努めたい	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明できるよう、パンフレットを常備している。外部研修年間計画の中にも位置付ける等、必要時には活用に向けた支援が行えるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書の内容を説明し、理解・納得された上でサインを頂く様にしており、また説明スタッフのサインも行う様にしている。改正等がある場合はその都度説明している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様の意見や要望は口頭にてその都度聞く様にしており、意見箱設置や市・区役所の介護保険課の連絡先を記入している。また3月末にて終了となったもサービス調査員からの意見や要望を確認していた	入居者や家族からは日頃から意見や要望の聴取に努めている。食事の持ち込みや着替えの希望、歌を聞かせてほしい、夜間の対応等、多様な要望に対し、適宜ミーティングで協議しながら柔軟に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて、行事・業務内容、その他事項についても意見交換や話し合いの上に決める事が多く運営に反映出来る様に努めている	職員全員参加を基本とする月例ミーティングを実施し、日々の申し送りも含め、意見の聴取に努めている。各入居者の排泄方法やレクリエーションなど、日ごろのケアに関する内容はミーティングにおいて意見交換が行われ、入居者本位のケアにつながるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じ希望休や公休、勤務時間の変更は随時実施しており、各スタッフとの意見交換にて働きやすい環境になる様に努めている。また、夜勤帯の時間外手当は増額実施		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は特に設けていないがヘルパー2級以上が望ましい。勤務希望や意欲等を確認し採用を決めており、スタッフの特技等を把握しレク等の係りを決め能力が発揮出来る様に努めている。また研修参加は可能な限り勤務調整にて対応。	職員の採用にあたっては、性別や年齢による排除はしていない。現在、20歳～70歳代の職員がいきいきと働けるよう、シフトや有休等柔軟に対応している。資格取得や研修参加の際には適宜費用の負担も行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会にて人権について開催、意識を深め人権の尊重・啓発に努めていき、日々の業務での意識が出来る様に努めている	勉強会にて、人権教育を行うとともに、入居者・家族からの要望も参考にしながら、入居者に対する声掛けの仕方など、振り返りながら日々の対応に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務実績に合わせ認知症実践者研修講習の参加やその他内外の研修参加を勧めている。また研修希望時には休みや勤務交代など随時調整に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は毎月系列施設・ホームとの会議・意見交換会に参加している。また、勤務状況に応じ区の地域ケア研究会の参加にも努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接や話し合いを行う場合は慣れて頂く様に同じスタッフが対応し、慣れ頂きながらゆっくと環境にも注意して話しを聞く様にしている。また、一人の意見にならない様に随時スタッフ間で意見・情報交換を行い、対応方法を検討している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、同じスタッフが対応。キーパーソンの方からの意見が中心だが他の方からも意見が聞ける様であれば確認し、関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居依頼の場合でも入居前提として話しを聞くのではなく相談として聞く様にしており、その時の状態を把握しサービスを決める様にしている。困難な場合はスタッフミーティングや居宅関係者からも意見を聞き対応方法を検討している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが全て行うのでは無く、状態に合わせて、可能な限り入居者様と一緒に家事等を行う様にしている。また、入居者様に役割を持って頂ける様に洗濯たみ等を分担し行って頂いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会や季節行事を通して家族間での関係を維持出来る様に呼びかけ、支援している。また家での対応方法や様子、生活状況等も聞きながら関係づくりに努めている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等に規制はなく馴染みの方が訪問出来る様にしている。また、希望時の外出・外泊にて関係の継続にも努めており、戸畑地区伝統の祇園見物も実施している	昔ながらの伝統行事である戸畑祇園には毎年見学に出かけている。また、行きつけの美容院への外出や携帯電話での交流、自身で教会に通えなくなった入居者には、訪問がある等、個々のなじみの関係継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の状態に合わせて小グループに分かれて洗濯やレク等を支え合いながら行って頂く様にしている。また、ユニット間の行き来や合同レク・行事等を通して入居者様同士が交流出来る様に努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的な連絡は取っていないが必要に応じ、ご本人・ご家族や転居先の施設スタッフから連絡があれば相談等を随時実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、ご本人・ご家族等から情報の把握に努め、また生活の中からも暮らしの意向が確認出来る様にしている。困難な方にはご家族やスタッフ間で話し合い対応している。	入居時や日々の生活の中から、入居者・家族の思いや希望の聴き取りに努めている。入居者の生活歴や趣味・嗜好を収集するため、「フェイスシート・情報書」を作成し、改善につなげている。	入居者の生活歴や「思いや暮らし方の希望」が職員間で共有され、現状からみた課題の解決に向けた取り組みを検討することで、より個別性のある計画につながると思われます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前所の担当者から情報確認やご本人様からも話を聞き生活歴等が把握出来る様に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事と入浴の時間は決まっているがその他の時間はご本人のペースに任せている、生活の中で観察や声掛けにて家事や趣味活動を促し状態の把握を行っており、役割を持って頂くなど必要であればプランに導入し、経過観察している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成担当者が中心となり行っているが月1度のミーティング時に定期的にスタッフ間で検討をしている。また、必要時応じ先生から指示や意見確認等も行い現状に即した内容に努めている	計画は3か月毎に見直され、計画作成担当者が1か月ごとに計画を評価している。ミーティングの際には介護職員から、状況を確認し、次の計画につなげるようにしている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子やケア実施状況を記入して、勤務者は確認を行っている。また担当者が中心となり定期的に評価・見直しを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の状況に応じて個々の希望に対応しているが、出来ない時もある。また、外出等の希望があれば連絡・支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援や訪問美容等を依頼し生活の向上を図っている。随時必要な事があれば協力施設や役所に連絡し支援に努めたい		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム指定医は無く入居時にかかりつけ医を確認し、希望の病院に受診する様に説明しており、受診時には必要な情報提供にて適切な医療が受けられる様にしている。また、協力医は週に1度の訪問にて連携を図り、希望時にはかかりつけ医変更も行っている	入居時にかかりつけ医を確認し、継続できるように支援している。家族やかかりつけ医を一覧表にまとめ掲示されており、迅速な対応が可能となるよう取り組んでいる。協力医による訪問診療や看護職員も配置され、看護記録が整備されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常に気付いた点を看護師に報告、その情報と先生の指示を合わせて看護記録として記入しており、必要であれば病院に連絡する事もある。また、協力病院の看護師も良く状態を把握しており、相談や意見交換も定期的を実施している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはホームでの生活状況や内服薬など必要な情報を連絡しており、相談員を窓口で面会や電話にて状態の把握に努め、退院や今後の生活についても意見・情報交換を図る様にしている。また入退院外でも定期的に訪問する様にしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期についての説明を行い意向を確認する様にしている。入居後状態の変化に合わせ、その都度話し合いを行い、協力医とも連絡を取りながら支援に努める	入居時及び状態の変化時に、重度化・終末期に向けた意向の確認をしている。看取りも経験しており、看護師配置や協力医との連携が密なことから、自然な形で看取りが行えるよう職員が協力し、チームケアの質を高めるよう取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて、看護師が中心となり急変対応訓練を実施している。また、急変マニュアルや緊急連絡簿も直ちに確認出来る様に設置している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署報告の上、年2回昼夜の消火・避難訓練を実施しており、防災メール・災害マニュアルにて確認出来る様にしている。また地域協議会との協定も確認出来ており、緊急通報装置・スプリンクラーの設置もある	2回/年避難訓練が行われ、1回は夜間想定での訓練が行われている。事業所が2階であるためエレベーター前に集合するよう、各居室から搬送する訓練がされ、協議会長の参加もある。川がすぐ近くにあるため、水害についても避難場所が検討されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会にて尊厳・プライバシーについて実施しており、各スタッフは日常生活の中で意識を持ち対応し、声掛けや同性介助等にも注意を努めている。	プライバシーについては、年間計画に沿って研修が行われている。入浴や排泄介助の際の声掛けや介助については特に留意し、個別の指導も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の会話から思いの確認や、入浴時の着替え選び、飲み物など本人の希望に添える様にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他入居者様との兼ね合い等により希望に添えない事もあるが、基本的にはご本人様のペースで生活出来る様に支援している。食事・入浴等の日課も声掛けしながら、生活の希望も確認する様にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの衣類用意時にはその都度、声掛け・確認をして頂き、また毎日の髭剃りや整容等も希望確認している、2ヶ月に1回訪問美容にてパーマや毛染めの依頼を行い支援に努めている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別のメニューは実施していないが、食事形態は状態・希望に沿っており、漬物等は預かり希望時提供している。また、調理は専門の調理員が担当しており、身体機能面から簡単な片付けを実施している。	調理担当職員が配置され、入居者の状態に応じた食事が提供されている。晩酌や嗜好品の摂取にも、医師との連携を図りながら柔軟に対応している。誕生会には外食や希望の確認、納涼祭やクリスマス会にはバイキングを行う等、「食」を楽しむ工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・食材調達を専門業者に委託し、バランスの摂れた食事を提供し、食事・水分量チェックも実施している。また嚥下状態に合わせたロミ剤の使用や10時にはコーヒー・紅茶等の飲み物も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後スタッフが声掛け・介助にて口腔ケアを実施しており、義歯洗浄剤は定期的にスタッフ管理にて実施している。特に必要な方はご家族に説明、訪問歯科での口腔ケアを受けられている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄状態の把握に努め、定期的な時間での排泄介助・声掛け・誘導にて支援している。(また身体機能的に常時おむつの方は不潔にならない様に対応している)	日中は排泄チェック表を用い、トイレでの排泄を促し誘導、介助している。夜間もできる限り、トイレまで誘導する等、自立を支援している。日常的には、体操や回廊を歩行訓練する等、機能の維持に向けた取り組みがされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便確認をしており、必要であれば先生に確認している。ホーム内では毎朝の体操や水分・食事等の対応をしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持あり、週2回の入浴日を決めているが、入浴は1人ずつゆっくりと入れる時間取る様にしている。また、希望、体調に合わせ入浴日数や曜日変更にて対応している	基本的な週に2回程度の入浴スケジュールを設定しているが、ほぼ毎日入浴の準備を行い、その日の希望や状況に柔軟に対応するよう努めている。状況に応じたシャワー浴や同性介護等、できる限り配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に在宅や前所での睡眠時間・生活の様子を確認しており、入居後は就寝・起床時間の記録し把握に努めている。日中はソファー・居室にてゆったりと過ごせる様に声掛け対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表にて服薬管理をしており、各スタッフは薬手帳を参考にし、理解する様にしている。また、往診時には薬剤師も同行され説明を受け、また不明な事があれば随時病院・薬局に連絡を取り対応する様にしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴の把握に努めホーム内で対応出来る事を検討し役割や趣味活動を実施している。歌や絵手紙教室も定期的に開催しており、また特別指示がなければ飲酒・喫煙も管理にて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩等はその日の状態に応じ随時実施している。行事として花見・菖蒲の観賞も行っている。また、外泊・外出の規制は無く入居者様から希望があればご家族に働きかけも行う様にしている。	季節や天候、入居者の状態に応じて、できる限り中庭や近くの川沿いへの散歩をするようにしている。近くのコンビニエンスストアに買い物に出かけることもある。地域の伝統行事である戸畑祇園山笠の見学や、季節に応じた花見等を企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族・入居者様の希望に応じ、説明の上に現金を所持して頂く方や、希望されない方もホーム管理にて毎月のパン販売や随時の買い物に対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の使用について特に決め事は無く希望時対応している。また、ゆっくりと居室にて電話出来る様にコードレス電話使用や手紙の投函の支援を行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の清掃はスタッフのチェックにて実施しており、清潔に過ごして頂ける様にしている。また季節ごとの飾りにて季節感を味わって頂ける様に工夫している	共有空間であるリビングは清潔感があり、中央のオープンデッキは開放的である。毎月、ボランティアの方による絵手紙や俳句教室が開催され、完成度の高い作品群が展示されている。事業所は二階部分に位置し、中央のオープンデッキからの採光もよく明るい。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓・リビングの共用部分ではソファ等にてゆったりと、ご自由に過ごして頂いており、ユニット間の移動も自由であり、入居者様が好きな場所で過ごせる様に努めている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や配置の決め事は無く入居時に使い慣れた物を持参して頂き、配置している。また、入居後も随時変更可能であり、生活状態やその都度希望に対応している	居室には、使い慣れた個々のテレビや家具などが持ち込まれている。各居室入り口には、入居者自身が描いた水彩画(色紙)等が飾られている。室内を職員と共に整理整頓する方もおり、生活の継続としての一場面がある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・洗面台・トイレ・廊下等には手摺を設置しており、安全に移動・生活出来る様にしている。また、床部分はカーペット素材であり骨折事故の軽減に努め、環境整備を行っている		